

# みたけ夢だより



5月号

横浜市教育情報ネットワーク【Y・YNET】公開サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mitakedai/>

横浜市立みたけ台小学校



## 「どうぞ」の気持ち

校長 谷口 佐智子

若葉が芽吹き、風薫る季節になりました。東門の桜も青々とした葉になり、小さなサクラソノの実が付いてきました。

新年度が始まり、一か月が経ちました。朝、門の前に立っていると様々な様子が見られます。遠くに黄色い旗を持った地域や保護者の方々の姿。毎日子どもたちの安全を見守り通学を支援してくださっています。登校班の班長が後ろを振り返りながら歩いている様子。下級生を気にしながら、ゆっくりと歩いて来ています。門の前まで来ると、お家の方と離れ難くて、つい涙がこぼれてしまう子。その子に向けて、上級生が手を引いたり、同級生が頭を撫でたりしながら、一緒に校舎へ進んでいきます。

朝の一刻だけでも、たくさんの優しい心や温かい眼差しに囲まれていることを感じます。そして、このことが当たり前のように行われていることが、みたけ台小学校の素晴らしさであり、伝統であると思います。見送っていらした保護者の方々に「よろしくお願ひします。」と声をかけていただくと、大切な子どもたちをお預かりしているのだという思いで、さらに身が引き締まります。

さて、4月23日は、「子ども読書の日」でした。読書推進活動の一つとして、翌24日の朝に、「校長先生の読み聞かせ」を子どもたちへ贈ることにしました。

紹介したのは『どうぞのいす』（作／香山美子・絵／柿本幸造・ひさかたチャイルド）というお話で、たくさん動物たちが登場します。それぞれが後の人のことを思い、「からっぽにしてしまつては、あとのひとにおきのどく」と言って何か少し自分のできることをしていきます。皆の「どうぞ」の気持ちが繋がっていくというお話です。

子どもたちへ、「どうぞ」の気持ちや、次の人のことを思える「優しさ」を広めて、繋げていってほしいという思いで紹介をしました。低学年向けのお話で、一年生の国語の教科書教材「はなのみち」の作者の本ではありますが、高学年や大人にとっても「感謝」や「他者への思い」などを考えるきっかけになるようです。興味があるようでしたら、ご家庭でも「ファミリー読書」としてお子さんと一緒に読んでみてください。

みたけ台小学校の素晴らしさや伝統を引き継ぎながら、「どうぞ」の気持ちを繋げていきたいです。「どうぞ」よろしくお願ひいたします。